



ここが美味しい楽しい お芋自慢のお店！



市外局番 (049)

1	川越菓舗 道灌 222-1576 郭町2-11-3	丁稚芋、おさつパイ、芋奴、芋クリームどらやき
2	手打ちうどん 岡野屋 222-3042 元町2-7-4	さつまいも天うどん
3	稲葉屋 222-2513 元町2-7-6	いもドーナツ、芋かのこ、三色いもダンゴ
4	芋屋初代仙次郎 川越元町店 222-8777 元町2-2-4	川越芋チップス、窯だしスイートポテト
5	サツマイモまんが資料館 元町1-15-5 紋蔵庵蔵の街店2F	サツマイモ漫画パネル展示 (川越いも学校&おいもサロン)
6	紋蔵庵 蔵の街店 228-9555 元町1-15-5	つばさかりん、ポテトショコラ、川越ポテト、川越ぼてとクッキー
7	紋蔵庵 喜多院門前店 226-2727 小仙波町1-19-1	つばさかりん、ポテトショコラ、川越ポテト、川越ぼてとクッキー
8	えぷろん亭 226-3370 元町2-1-19	大吉いも弁当、いもカツ、いも焼きそば
9	醬遊王国 川越時の鐘店 298-4491 大手町14-5	時の鐘しょうゆ (いもしょうゆ: 「Made in SAITAMA優良加工食品大賞2022」受賞)
10	おかしの蔵 右門 時の鐘店 226-5663 幸町15-13	いも恋 (まんじゅう)、芋ぼて (スイートポテト)
11	おかしの蔵 右門 一番街店 225-6001 幸町1-6	いも恋 (まんじゅう)、芋おこわのお食事ができます
12	やまわ・陶路子 222-0989 幸町7-1	さつまいもミニ懷石、お抹茶、お汁粉 (おさつもち入り)
13	亀屋栄泉 222-0228 幸町5-6	里自慢、里土産、里乃誉、芋ようかん、一口こがね芋
14	東洋堂 222-1852 松江町2-6-9	10種類のいもせんべい、芋ちょこれーと、いもせんべいショコラ
15	ビストロ岡田 225-4608 仲町7-13	さつまいもプリン、二色芋のパバロア
16	kashichi 228-3320 幸町1-13	IMO-KENPI (お土産にぴったり、おしゃれな袋入りの芋けんぴ。お味はプレーンのほか、こま、塩味も。)
17	龜屋 222-2052 仲町4-3	"郷の芋" (季節限定:川越芋100%使用のほくほくした食感の生芋ようかん。さつま芋好きにはたまらない。)
18	彩乃菓 298-4430 連雀町10-1	甘芋大福、お芋と焙じ茶のパフェ
19	隆清堂 224-6265 久保町3-17	芋せんべい、芋まつば
20	くらづくり本舗 225-0225 久保町5-3	ぼくぼく、べにあかくん、芋ようかん
21	寿庵 喜多院店 225-1184 小仙波町1-2-11	小江戸姫 (わりこ3段、いも天ぷら、芋アイス)
22	大学いも いわた 298-5164 新富町1-8-17	手づくり大学いも、お芋チーズケーキ、天津甘栗
23	川湯遊ランド・ホタル三光 226-2641 新富町1-9-1	お土産に「各種さつまいも菓子」!
24	小江戸 蔵里 228-0855 新富町1-10-1	サツマイモ菓子等、川越銘菓が勢揃い!!
25	おいも堂 228-1780 新富町1-10-1	大学芋、スイートポテト、干し芋、薄切り大学芋チップ
26	いも膳 243-8551 小室15-1	いも懷石、いも点心、いも重 (いもうな重)
27	サツマイモの日 毎年 10月13日 いも供養 天台宗 妙善寺 222-7559 川越市菅原町9-6	
28	紅赤いもの日 毎年 12月1日 いも神事「献芋式」 氷川神社 224-0589 川越市宮下町2-11-3	

協賛社

(順不同)

川越開運堂 049-224-7380 新富町1-9-1	川越芋の干し芋、川越芋バター、川越芋ペースト
協同商事 コエドブルワリー 0570-018-777 中台南2-20-1	紅赤いもビール
福島食品 049-295-1011 毛呂山町川角644-3	紅赤ジェラード (業務用) 紅赤ペースト (業務用)
さつまいもアンバサダー協会 080-9524-9766 東京都足立区千住2丁目16-3 興伸ビル	さつまいもイベント企画 さつまいもアンバサダー認定講座



2023.9.5000



10月13日「いも供養」(妙善寺)



12月1日「いも神事」(氷川神社)



川越市マスコットキャラクター「ときも」



いもりん



川越さつまいも地蔵尊



いも美神 (美容健康)



特大川越いもタルマ



サツマイモまんが資料館



観光地・川越のシンボル「時の鐘」



11月「お芋フェスティバル」(ウニクス川越)



2月「コエド芋パーク」(蓮華寺境内)

サツマイモ天国「川越」!!

川越おいも 自慢ガイドMAP

～おいも商品&文化が花咲くマチ～

① サツマイモの日は10月13日

年間を通して、サツマイモの旬の時期は10月。収穫が最も多く、いろいろな品種が出そろいます。また、値段も安くなります。「九里四里うまい十三里」の13と、旬の10月を結び付け、1987年に川越で全国に向け宣言しました。(川越いも友の会) 10×13=130 →1ㄢ0 →IMO

③ 川越いもの品種とは

川越いもは江戸時代後期に、江戸の町に現れた焼き芋屋用の美味しいイモとして有名になり、「本場ものは川越」と称されました。その当時の品種は「アオツル」「アカツル」で、その後、明治後期に「紅赤(ペニアカ)」が発見されてからは、昭和58年頃までは「川越いもと言えば紅赤」といわれていました。現在では、新品種も含め約15～20種類が作られ、秋になると生産農家での直売や芋掘り観光で売られています。

⑤ 川越地方サツマイモ商品文化世界一

川越いもは、生産農家グループの「川越いも研究会」(約15軒)や「三芳町川越いも振興会」(約30軒)が、その伝統を守るべく生産を続けていますが、それと共に観光地川越では、人気観光商品として驚くほど多くのサツマイモ製品が作られ売られています。その活動を推進すべく、「川越サツマイモ商品振興会」(業者など約30店)が振興事業に取り組むと共に、市民の文化活動として「川越いも友の会」が長年活動し、川越地方はイモ商品文化の花咲く世界一のマチとなっています。

② 川越いもの定義は

川越いもとは、江戸・東京より見て川越地方(川越市南部・三芳町・狭山市・所沢市・ふじみ野市・新座市など)の武蔵野台地の畑作地帯で作られるサツマイモのことを言います。川越いもは、寛延4年(1751)に南永井村(現・所沢市)の名主・吉田弥右衛門から作り始められ、約270年の歴史と伝統があります。

④ 伝統ブランド品種「紅赤」の保存

紅赤(俗称:金時)は、明治31年(1898)に北足立郡木崎村(現・さいたま市北浦和)の主婦・山田いちが発見したサツマイモで、戦前は「東日本の紅赤」と言われたほどの代表的な品種です。しかし、現在は新品種におされ、三芳町・川越市・さいたま市のみでしか栽培されず、生産保存が必要になっています。12月1日を「紅赤を守る日」と定めると共に、いまだにプロからすると、天ぷらにするなら「紅赤」が一番と言われ、その風味と舌ざわりで、紅赤を愛する方々が多くいます。

⑥ バラエティー豊かなサツマイモ商品

川越地方には数がわからないほどの多くのおいも商品が溢れています。その代表的なものは次のようなものが作られています。
・芋菓子…110年以上の歴史がある芋せんべいの他、芋納糖、芋まんじゅう類、スイートポテト類、芋ようかん類、芋ドーナツ、芋ソフトクリーム、芋プリン、芋ケーキ類、芋松葉、芋チップス、芋パン、芋クッキーなど。
・芋料理…いも懷石、いもうな重、芋ミニ懷石、いもうどん、芋おこわ、いもカツなど。
・飲物類…紅赤いもビール、紅赤焼酎、紅赤いも茶など。

川越サツマイモ商品振興会



川越産農産物ブランド化連絡会も
応援しています!

川越おいも自慢店マップ

